

授業科目名	舞踊実習 I ～VIII (日本舞踊)	担当形態	実習		
		開講学期	春・秋		
担当教員	西川 まさ子・西川 陽子	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業のテーマ及び到達目標＝

日本舞踊の習得と、伝統芸能の知識を得る。

日本舞踊を習得する為に、着物の着付けを身につける。

授業時間内は着物での立ち振る舞いを常に認識しながら動く。

その上で、日本舞踊の振り付けや型を通して、美しい立ち姿の習得と、表現の為の身体を追求する。

また、着付けに於いては着付ける過程から片付け、舞扇や小道具の扱い方等の心遣いも合わせて学ぶ。

その様な心遣い、挨拶等の礼節も共に学ぶ事で、日本文化への気付きや人間力の向上を目指す。

NOSS (にほん・おどり・スポーツ・サイエンス) を学んでいただくことにより、和の動きを基にスポーツ科学を取り入れた健康運動としての日本舞踊の身体の使い方を知り、現代人の日常生活における活力維持、体幹を鍛え、美しい動きを習得する。

＝履修の条件と学習の方法＝

経験は問いません。男性も履修して頂けます。

実技中心の授業です。

その為、着物用具等、忘れ物の無い事。

但し、着物用具は、間違えた物を購入される場合もあるので、初回に限り、全てが揃ってなくても良い。

初回に指導致します。舞扇を持っていない場合は購入して頂きます。

＝授業の概要＝

ゆかたを着付けて、所作や日本舞踊、NOSS (日本おどりスポーツサイエンス) の実技演習。

伝統芸能の知識を学ぶ為に、映像等の参考資料を使っの授業も行う。

＝授業計画＝

<春学期>

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
ゆかたの着付けに必要な用具の確認
ゆかたの着付け
- 2回 ①扇子づかい（丁寧に、気持ちが行き届くように扱う事で指先までの 表現の向上を目指す）
②日本舞踊の基礎（腰の安定や重心移動を意識しながら、立ち、座り、構え、すり足）
以降①②は、毎授業で行う
- 3回 西川まさ子先生特別授業
- 4回 ①②、課題演目の習得（その1）
- 5回 ①②、課題演目の習得（その2）
- 6回 ①②、課題演目の習得（その3）
- 7回 ①②、課題演目の習得（その4）
- 8回 ①②、課題演目の習得（その5）
- 9回 ①②、課題演目の習得（その6）
- 10回 ①②、課題演目の習得（その7）

- 11回 ①②、課題演目の習得（その8）
- 12回 ①②、課題演目の習得（その9）
- 13回 ①②、課題演目の習得（その10）
- 14回 ①②、課題演目の習得（その11）
- 15回 西川まさ子先生特別授業

課題演目は、履修人数や男女比などを考慮して、年度ごとに選定します。

<秋学期>

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
ゆかたの着付けの応用
- 2回 ①扇子づかい②日本舞踊の基礎の確認
- 3回 着物の着付け（袷着物、名古屋帯の着付け）
- 4回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その1）
- 5回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その2）
- 6回 西川まさ子先生特別授業
- 7回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その3）
- 8回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その4）
- 9回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その5）
- 10回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その6）
- 11回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その7）
- 12回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その8）
- 13回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その9）
- 14回 西川まさ子先生特別授業
- 15回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する（その10）

課題演目は、履修人数や男女比などを考慮して、年度ごとに選定します。

＝テキスト（必携）＝

特になし

＝参考書・参考資料（必携）＝

特になし

＝成績評価の方法と評価の基準＝

課題演目を踊る期末の発表に積極的に参加し、出席状況、授業態度に問題がない場合はA評価。
欠席・遅刻が多い場合、習得への意欲が感じられない等授業態度に問題がある場合は、B評価とします。
授業態度にいちじるしい問題がある場合は、C・D評価もあります。

＝その他＝